平成25年12月期

決算説明会

平成26年2月20日
大倉工業株式会社

当社の概況

社　　名	大倉工業株式会社 Okura Industrial Co.,Ltd.
本社所在地	香川県丸亀市中津町1515番地
代 表 者	代表取締役社長　髙濵　和則
設　　立	昭和22年7月11日
資 本 金	86億1千9百万円
発行済株式数	62,074,351株
従業員数	1,993名（連結子会社13社含む）

【平成25年12月末現在】

目次

Ⅰ.平成25年12月期決算の概要

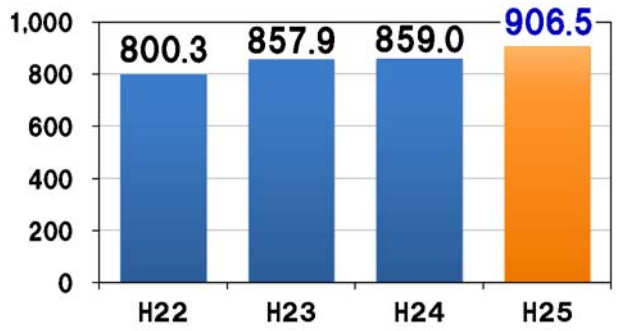
Ⅱ.平成26年12月期の業績予想

Ⅰ.平成25年12月期決算の概要

連結売上高　通期実績

（億円）

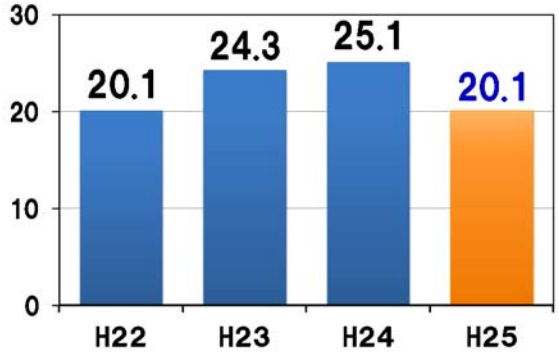
前年比 ＋5.5%



連結営業利益　通期実績

（億円）

前年比 ▲20.1%



売上高・営業利益

【売上高】

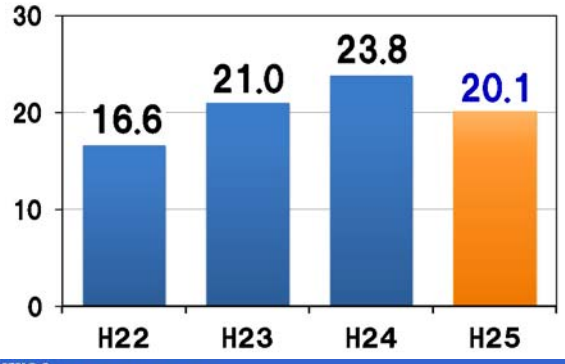
・新規材料事業を筆頭に全てのセグメントが増収

【営業利益】

・建材事業の赤字は大幅に縮小するも、合成樹脂事業は値上げが難航、新規材料事業は高付加価値製品が伸びずに大幅に減益

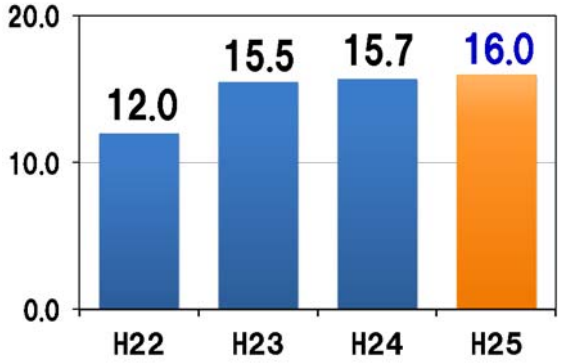
連結経常利益　通期実績

（億円）　前年比 ▲15.9%



連結当期純利益　通期実績

（億円）　前年比 ＋1.8%



営業外・特別損益等

【営業外損益】

・為替差益　円安の影響により 197百万円

・持分法による投資損失

無錫大倉包装材料　今期より適用 75百万円

【特別損益】

・投資有価証券売却損益

保有株式の売却益 209百万円　売却損 27百万円

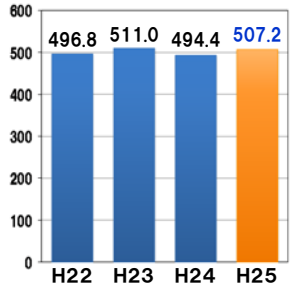
・固定資産除売却損益

高松営業所土地売却益 37百万円

セグメント別の概要

合成樹脂事業セグメント

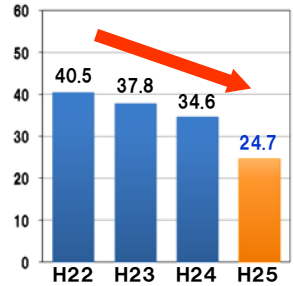
（億円）【売上高】



前 年 比 ＋2.6%

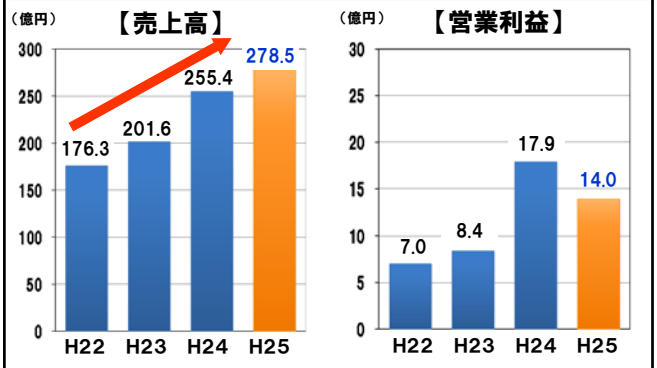
（販売数量 ＋3.1%）

（億円）【営業利益】



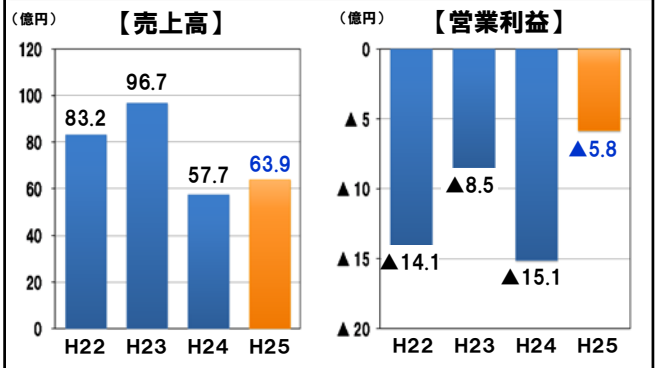
前 年 比 ▲28.7%

新規材料事業セグメント



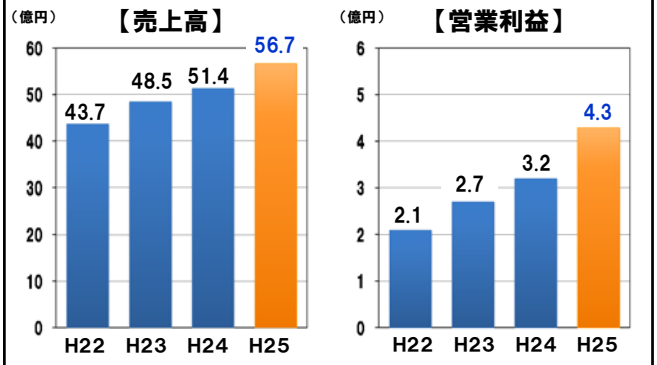
前年比 +9.0%　　前年比 ▲21.6%

建材事業セグメント



前年比 +10.8%　　前年比 923百万円改善

その他セグメント



前年比 +10.2%　　前年比 +30.8%

キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フロー計算書

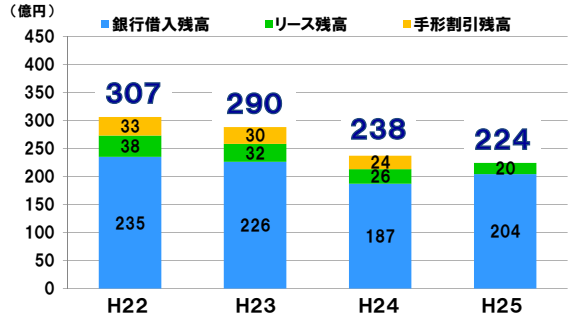
（億円）

	H22年	H23年	H24年	H25年
現金及び現金同等物期首残高	105.4	75.5	77.4	74.0
営業活動によるキャッシュ・フロー	8.5 (57.5)	55.4 (57.7)	85.1 (91.8)	37.9 (62.0)
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲29.6	▲36.8	▲38.5	▲38.5
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲8.6 (▲57.5)	▲16.4 (▲18.8)	▲50.6 (▲57.3)	3.8 (▲20.3)
現金及び現金同等物期末残高	75.5	77.4	74.0	78.3

※( )内は、手形割引等考慮後の実質キャッシュ・フロー

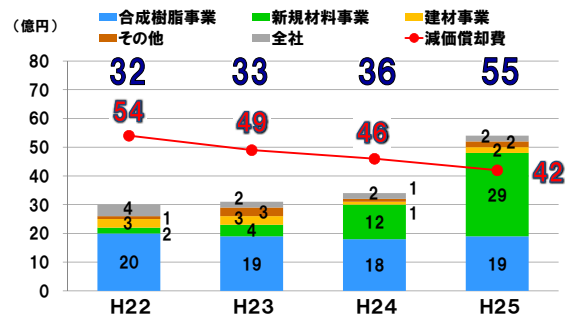
手形割引中止による売上債権の増加（24億円）で営業CFが大幅に悪化

実質借入金残高



実質借入金は着実に減少傾向
（手形割引中止により短期借入増加）

減価償却費及び設備投資（工事ベース）



設備投資計画67億円に対し実績55億円
工事遅延等により約12億円翌期へ

II.平成26年12月期の業績予想

平成26年業績予想

マクロ見通し

日本経済は、消費増税前の駆け込み需要と
その反動減があるも、年間を通すと緩やかに回復

売 上 高

建材の売上回復が寄与し、全体でも増収

営業利益

建材の赤字が引き続き縮小し、全体でも増益

平成26年業績予想

（億円）

	上期	下期	通期	*前年*
売　上　高	440	495	935	*906*
営 業 利 益	8.5	17.5	26.0	*20.1*
経 常 利 益	7.0	16.0	23.0	*20.1*
当期純利益	3.0	18.0	21.0	*16.0*

法人税の繰越欠損金解消による税効果で
当期純利益が、下期に大きく増加

平成26年業績予想　セグメント別売上高

（億円）

	上期	下期	通期	*前年*
合成樹脂事業	255	270	525	*507*
新規材料事業	120	150	270	*278*
建　材　事　業	40	45	85	*63*
そ　の　他	25	30	55	*56*
合　　計	440	495	935	*906*

前年6月にJIS認証を再取得した建材事業を中心に増収
（前期比＋28億円）

平成26年業績予想　セグメント別営業利益

（億円）

	上期	下期	通期	*前年*
合成樹脂事業	12.0	14.0	26.0	*24.7*
新規材料事業	5.0	10.0	15.0	*14.0*
建　材　事　業	▲1.0	0.5	▲0.5	*▲5.8*
そ　の　他	1.5	2.0	3.5	*4.3*
調　整　額	▲9.0	▲9.0	▲18.0	*▲17.1*
合　　計	8.5	17.5	26.0	*20.1*

合成は製品値上げ、新規材料は高付加価値製品の拡販に最注力し、
微増益。建材は下期に黒字化し、前期比5億円強の改善。

グループ基本方針

大倉工業グループの目指す姿

「社会から信頼される企業」
であり続ける

成長分野にソリューションを提供できる
「技術優位な企業集団」

第四次中計の基本方針

全社戦略は
国内市場は「量」・海外市場は「質」

重点課題

①建材事業部の黒字達成　②ステークホルダーからの信頼回復
③現場力や労働生産性の向上　④要素技術の深化と獲得

収益基盤の安定強化

第四次中計の数値目標（H24.11.12発表）

（億円）

	H25	H26	H27
売上高	858	905	937
営業利益	30	31	37
減価償却費	47	46	45
設備投資額	67	32	51

平成26年度の基本方針

全社戦略

・外部環境の変化、需要動向をしっかりと予測し、
「量」、「質」をさらに追求する

・人、組織を再編し、
メリハリをつけた設備投資を実行していく

収益基盤の再構築

全社戦略 【収益基盤の再構築のために】

戦略的な投資・撤退には全社最適の視点
部分最適と全社最適の整合

既存事業
- ・基盤事業…安定して利益を稼ぐ事業
- ・戦略事業…将来の利益の源泉となる事業

①基盤事業と戦略事業を区分し、「課題の見える化」
②事業の組換えや、廃止・統合による見直し

【合成樹脂事業】

「量の拡大」の追及と不採算事業・製品の再構築

【基盤製品】
- 量の確保と円安・原材料価格上昇への即応
- 生産加工技術力のアップ

【戦略製品】
- クリーンキャスト製品、PBT関連製品等の機能性フィルムの実績拡大

【合成樹脂事業】「量」の拡大

コモディティ製品を取り扱う連結子会社関西オークラにて
食品ユーザーの要求を満たす衛生環境を備えた新工場を建設。
量の拡大を狙う汎用製品にも継続投資により生産性のアップを図る。



合成樹脂事業
関西オークラ新工場建設地［関西オークラ内(斜線部分)］

H26年2月10日現在

投資額：19億円
H25年8月着工、H26年4月～試運転～生産開始

【新規材料事業】

精密溶融押出・精密塗工技術を駆使し、
タッチパネル市場での高度な要求品質に対応

【基盤製品】
- ラミネート製品の拡大
- OLSの生産能力の拡大及び薄肉偏光板の開発

【戦略製品】
- 仲南G棟の確実な立上げと塗布型透明導電フィルムの本格採用に全力

【新規材料事業】「質」の追求

タッチパネル市場に向けた位相差補償フィルム等の
新しい生産技術に対応した工場　（仲南G棟）







新規材料事業
新工場建設地［仲南工場内(斜線部分)］

投資額：33億円
H26年1月～試運転～生産開始

【新規材料事業】

＜OLS増強工事＞

・タブレットPC、スマートフォンの旺盛な需要に対応するため、
偏光フィルム第二ラインを増設
・オー・エル・エス(有)工場内で、既存建屋を有効活用し、
平成26年秋を目処に稼働



【建材事業】

パーティクルボード事業の本格復興と
建装材事業の構造改革により黒字化へ

【基盤製品】
- PBラインの品質向上と保証体制の再構築
- PBの拡販及びラミネート技術を強みとする製品群の拡充

【戦略製品】
- ユーザー直結のフロア製品の拡販により
  フロアの販売比率UP

営業損益:H26年▲50百万円(前期比5億円強改善)

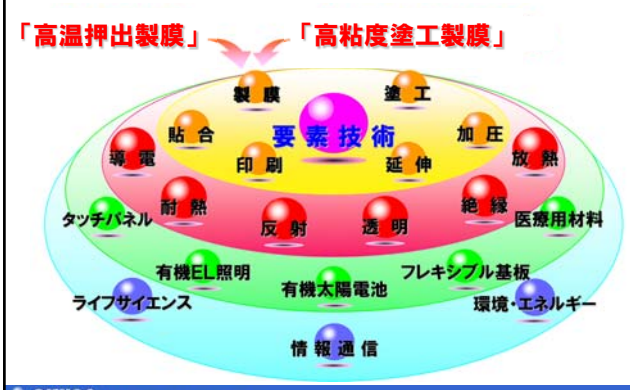
【R&Dセンター】

要素技術の更なる深化を進め成長分野での
事業拡大と機会探索

- 塗布型透明導電フィルムは、数社でサンプル評価中
  今期より1社で採用スタート
- 高粘度塗工製膜・高温押出製膜の要素技術を
  駆使して、事業化に向けた新規開発テーマを推進

【R&Dセンター】開発の方向性

＜開発の方向性＞



業績予想・事業計画に関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。